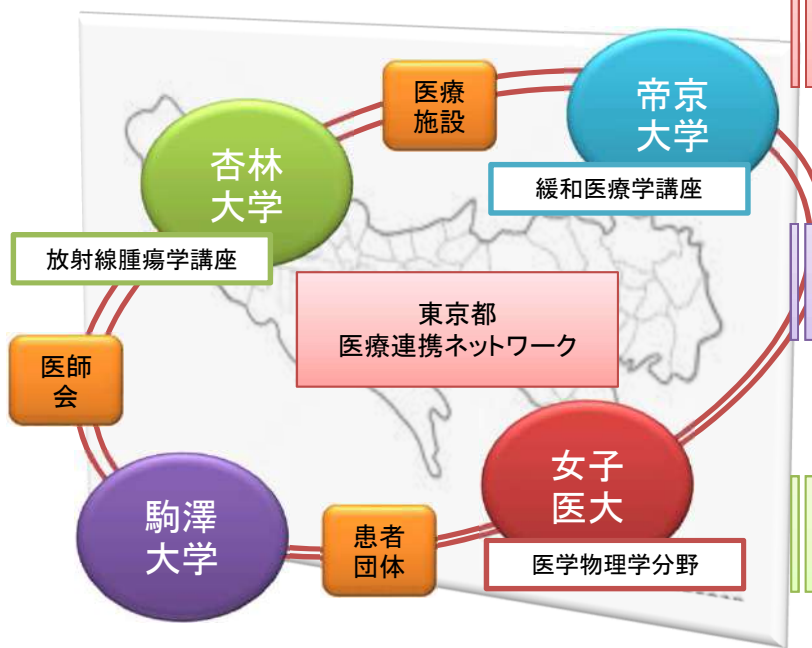


取組大学：東京女子医科大学（連携大学：杏林大学、帝京大学、駒澤大学）

取組名称：都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育

○本事業では、高度ながん医療を提供でき、かつ、都市部における、がん患者の急速な高齢化や単身者増加、がん医療施設の不足など様々な課題を解決できる、急性期から在宅医療までの地域がん医療連携の効率化に対応できる地域医療のコーディネート能力をもったがん医療人材養成を目的としたものである。

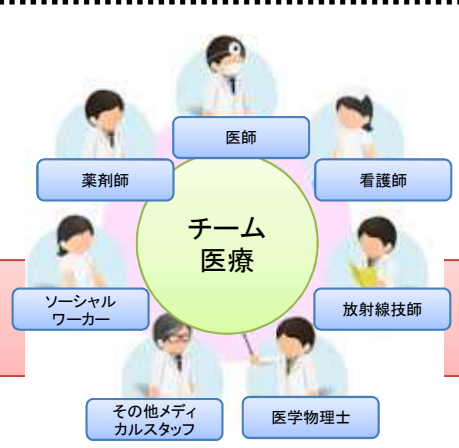
4大学のもつがんに関する教育リソースを基に、医師会、地域医療施設、患者団体と連携し、都市部のがん医療施設が抱える課題、医療施設に通院するがん患者さんへのアンケート調査等による都市部のがん患者が抱える課題を明確化し教育プログラムに反映し、課題解決できる人材を養成する。



地域医療コーディネート能力をもったがん医療人材養成

地域社会への貢献
(市民公開シンポジウム
セミナー、がん教育)

その他、地域医療への
貢献(がん登録等)



補助期間内の人材養成実績
(平成28年時点)
1,927人

開催実績数	総参加人数
123回	14,399人

院内がん患者登録数	がん患者登録数
123回	14,399人

補助期間終了後の平成29年度以降においても
本事業の取り組みを継続して実施し、
日本のがん医療の発展に貢献する。

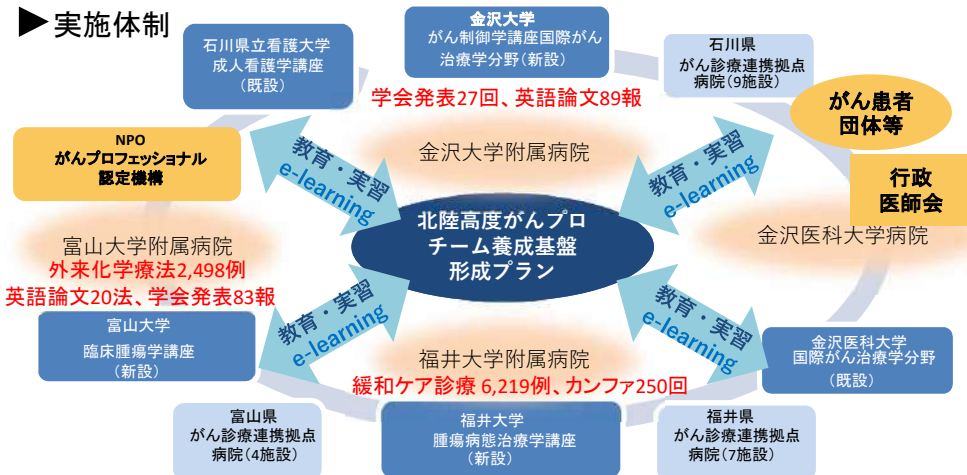
取組大学：金沢大学（連携大学：富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）
取組名称：北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

○取組概要：北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランは①がん教育改革（本科8コース）、②地域がん医療（インテンシブ11コース）、③がん研究者養成（本科2コース）より構成されており、テレビ会議やE-learning等のICTを活用した研修、スタッフ教育、症例検討会を通じ、臨床現場でのチーム医療のリーダーとなる人材養成や、医療の均てん化、研究者養成に取り組みました。

＜本プログラムのコース概要と受入実績＞

- 1.がん教育改革によるがん専門医療人養成(大学院 本科8コース)
 - ・臨床現場でのチームリーダーの養成 **受入実績 105名**
 - ・多職種連携教育(IPE)の推進
 - ・全国e-learningクラウドによる教育インフラ拡充 **✓本科10コースの充足率 138%**
- 2.地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成(インテンシブ 11コース)
 - ・医療過疎化地域における、がん診療体制の再構築 **受入実績 277名**
 - ・地域がん医療ネットワークの活用による、多職種協働人材の育成
 - ・休職中看護師を活用するための教育システムの確立
- 3.がん研究者養成(学部、大学院一貫教育 2コース)
 - ・高度ながん研究能力を有する研究者養成 **受入実績 11名**
 - ・がん研究者早期養成のための卒前・卒後一貫教育システムの構築

▶実施体制



北陸地域の医科系4大学、看護系1大学が中心となった、がん診療連携拠点病院(17施設)行政、医師会と連携し、事業を実施。平成29年度以降も、連携大学、NPOがんプロフェッショナル認定機構の協力のもと、本プログラムを継続する。

▶ 主な取組と成果

【取組】

- ICTを活用した研修**
〈医療スタッフ教育〉
- いつでも、どこでも学べる
e-learning講座を開催
 - テレビ会議システム
(連携大学、がん診療連携拠点病院等 全26拠点)
 - がん患者ボード症例検討
 - がん看護事例検討会
 - FD講演会など

がん患者団体との
〈交流連携・情報提供〉

- がん患者団体
市民公開講座、連絡協議会等での交流連携
- 各種情報提供
ホームページ・ケーブルテレビ等での情報提供

ホームページ等による
〈情報公開・情報発信〉

- 週1回ペースでHP更新
- 患者・一般向け
標準治療・最新治療に関する情報
- 医療従事者向け
がん情報など
- 新聞・ケーブルテレビ
市民公開講座等情報公開
多彩なコンテンツを提供

がん緩和医療学講座



E-learning



がん患者ボード症例検討会



がん看護事例検討会



市民公開講座



がんプロ.com(ホームページ)

【成果】

がん薬物専門医等
〈専門医、医療スタッフ輩出〉

- 認定資格取得者数(139名)
 - がん薬物療法専門医 3名
 - がん治療認定医 20名
 - がん看護専門看護師 10名
 - 医学物理士 4名等
- がん患者ボード症例検討(109回、194例、6,337名参加)
- がん看護事例検討会(40回、4,540名参加)
- 海外FD研修(5回、17名参加)

緩和ケア・がんサロン等
〈患者サポートの充実〉

- がんサロンの開設(29施設)
食事から治療まで幅広く対応(計31回、826名参加)
※金沢大学附属病院
- 緩和ケアセンターの開設(3施設)
がん患者の身体的、精神的苦痛を軽減するケア充実
- 石川県がん対策推進条例の制定

正しいがん知識の発信
〈がん医療の均てん化・啓蒙〉

- 正しいがん知識の発信
ホームページ等での標準的治療、最新治療を紹介(検索数15万回/月)
市民公開講座(40回)新聞掲載(27回)
- 小中学生のがん教育への対応
教諭対象教材の作成と無償配布

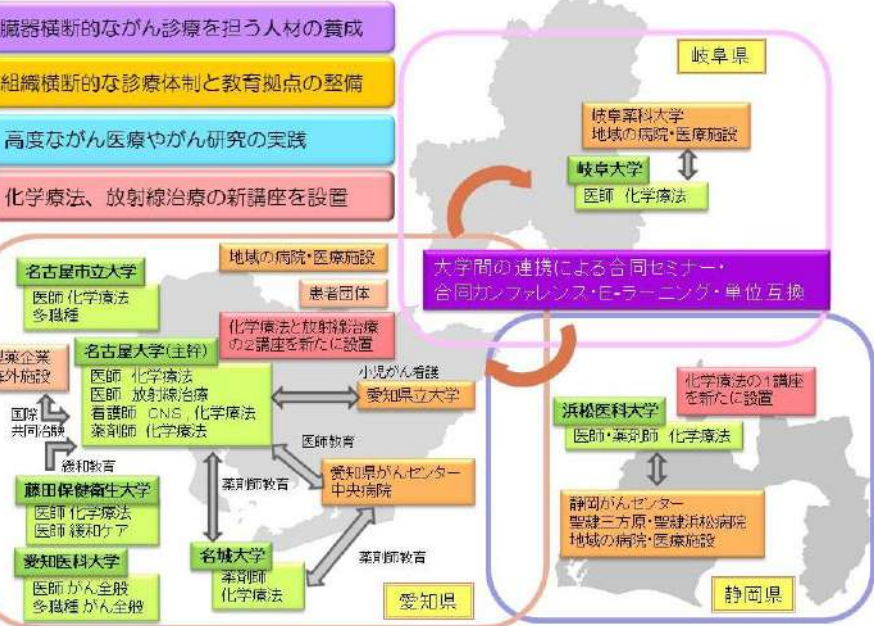
取組大学：名古屋大学（連携大学：浜松医科大学、岐阜大学、名城大学、藤田保健衛生大学、名古屋市立大学、愛知医科大学）

取組名称：「組織横断的がん診療を担う専門医療人の養成」

○取組概要

診療科や職種を超えて、横断的にチーム医療を実践できるがん医療の専門家を養成するとともに、がん診療の体制と人材育成の拠点を整備することにより、東海地区におけるがん医療の均てん化を目指す。

主な取り組み



<大学院生数>

大学名	H24	H25	H26	H27	H28	合計
名古屋	7	7	9	7	4	34
浜松医科	2	4	4	0	1	11
岐阜	2	3	1	2	2	10
名城	—	2	1	0	0	3
藤田	1	0	1	9	3	14
名市	1	1	1	3	1	7
愛知	—	0	0	0	1	1

<インテンプ受入人数>

大学名	H24	H25	H26	H27	H28	合計
名古屋	607	715	609	514	300	2745
浜松医科	31	25	49	19	16	140
岐阜	3	2	2	2	1	10
名城	132	75	32	14	10	263
藤田	1	0	0	0	0	1
名市	318	855	811	918	814	3716
愛知	6	8	5	0	0	19

<東海がんプロHP、Eラーニング>



東海がんプロ独自のHP、Eラーニングを運営
5年間で90本のコンテンツを作成、公開

<専門医等資格者数（H24～27）>

がん薬物療法 専門医	放射線治療 専門医	がん看護専門 看護師
18	6	14

<東海オンコロジーセミナー>



がんに関わる医師、医療スタッフを対象に系統的な講義を実施した。

年4～5回
名古屋、岐阜、浜松で実施
5年間で計23回実施



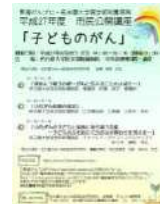
○特任教員連携会議
年4回

○教員FD 年1回

参画大学間の連携を深めるために実施



<市民公開講座、セミナー>



○市民公開講座

年5～7回

5年間で計31回開催

○各種セミナー、講演会
5年間で計152回開催

取組大学：京都大学（連携大学：三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）
取組名称：次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

○取組概要

「先端のがん研究者の養成」と「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成」を目的に、履修生の「受入目標人数の達成」、「がんに関する専門医の取得推進」、「学会発表、論文発表推進」を重点目標として事業を推進。

入学者実績

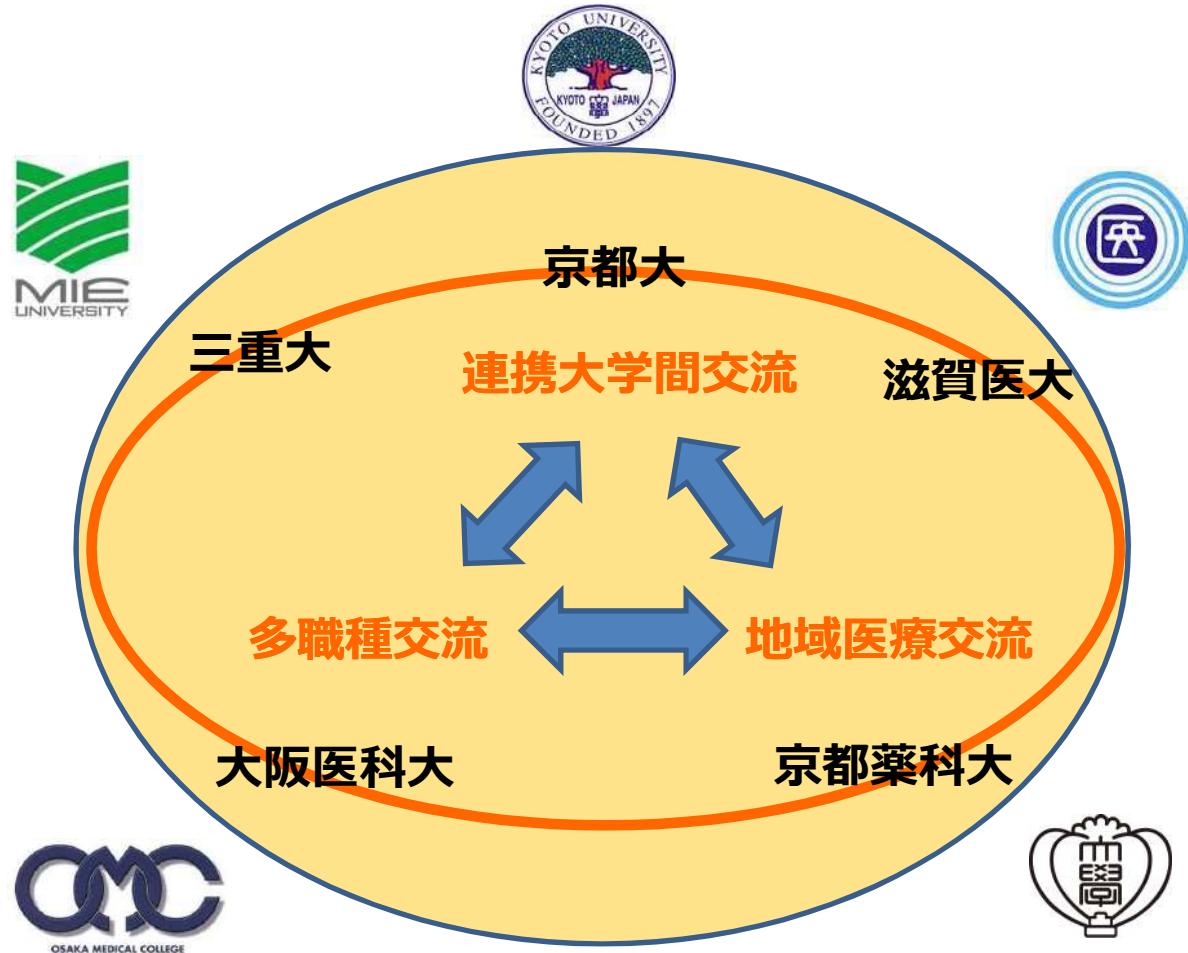
	受入目標人数	入学人数	備考
24年度入学	28	57	
25年度入学	35	39	
26年度入学	38	54	
27年度入学	40	48	
28年度入学	37	37	
合計	210	235	

専門医等資格取得者実績

	受験者数	合格者数	資格取得者数
24年度	36	36	29
25年度	45	44	47
26年度	41	38	42
27年度	47	44	39
28年度	24	19	23
合計	193	181	180

教育研究成果発表数

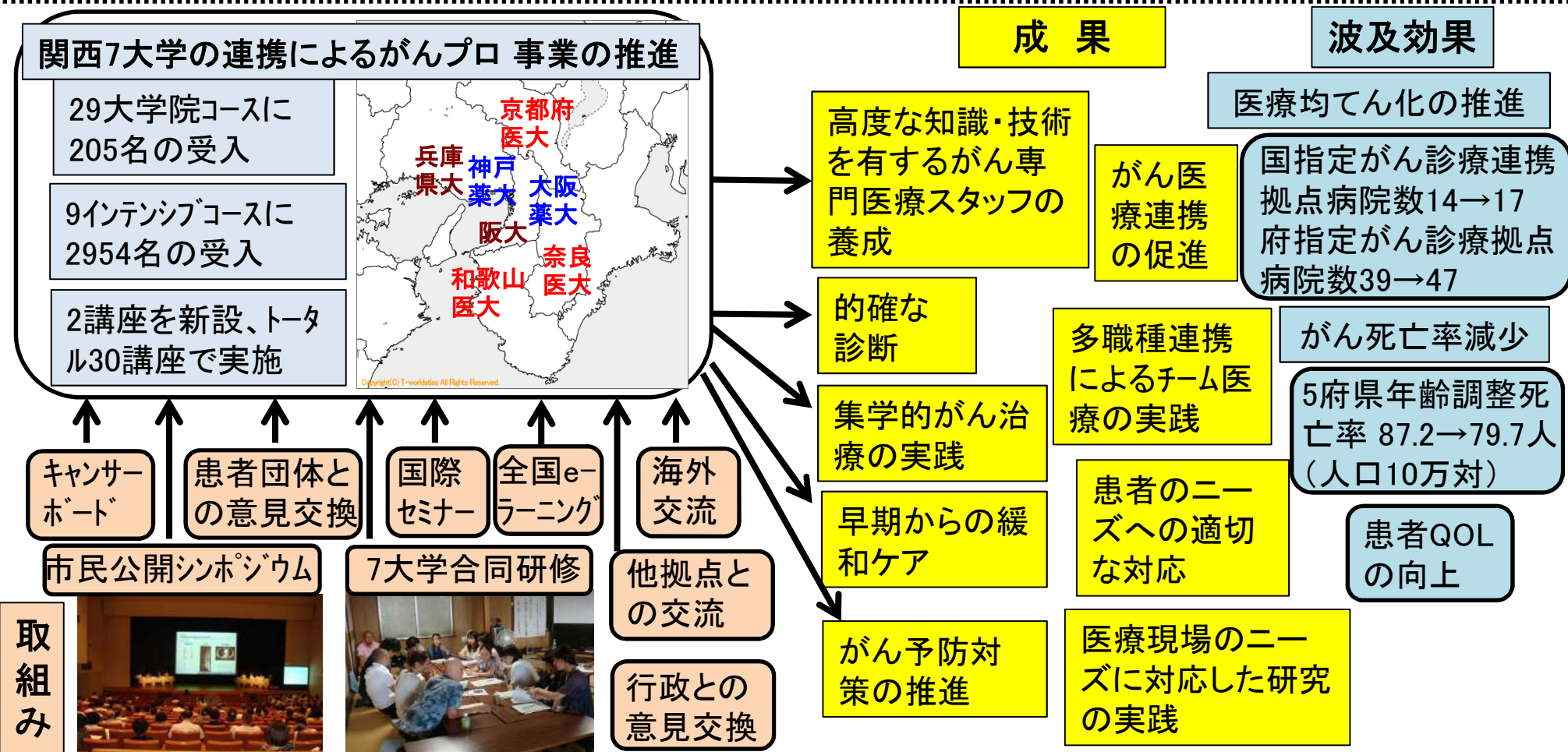
	国際学会、英文誌等	国内学会、和文誌等	合計
24年度	23	36	59
25年度	78	86	164
26年度	46	52	98
27年度	82	105	187
28年度	89	102	191
合計	318	381	699



取組大学：大阪大学（連携大学：京都府立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学、和歌山県立医科大学、大阪薬科大学、神戸薬科大学）

取組名称：地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成

○取組概要 本事業は連携7大学が、がんの予防・検診から、診断、治療、在宅、緩和医療に至るまで、各局面に必要な人材養成を行うことにより、がんの治療成績向上及び患者QOLの改善を実現し、関西地区のがん死亡率最悪の状況からの脱却を図るとともに大学間の連携を強化することにより、養成する人材の職種を増やすことで、関西各地区の医療均てん化を推進する。



平成24年度～平成28年度 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」 成果報告

取組大学：近畿大学（連携大学：近畿大学、大阪市立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫医科大学、大阪府立大学、神戸市看護大学）

取組名称：7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン

○取組概要：阪神地区の国公私立7大学8学部の医学、看護学、薬学系大学院研究科が相互に連携し、がんに関連した講座新設、がん専門教育プログラム改革、地域医療に携わるがん医療人育成と人的交流強化、国際的リーダーシップを発揮し基礎と臨床とをつなぐがん研究者養成などの取組によって、高度ながん診療と研究を実践できる人材養成の教育基盤拠点を構築した。

プラン全体の課題

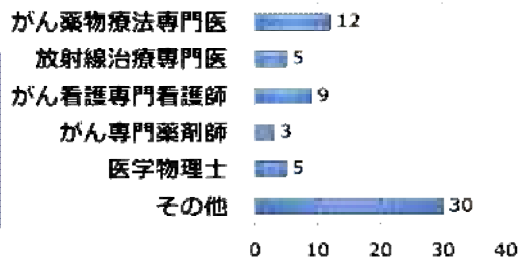
- ◆ 「がん」に特化した講座の新設
- ◆ がん専門教育プログラムの改革
- ◆ 地域医療に携わるがん医療人の養成・人的交流の強化
- ◆ 国際的なリーダーシップを発揮できる、基礎と臨床とをつなぐ研究者の養成

取組実績

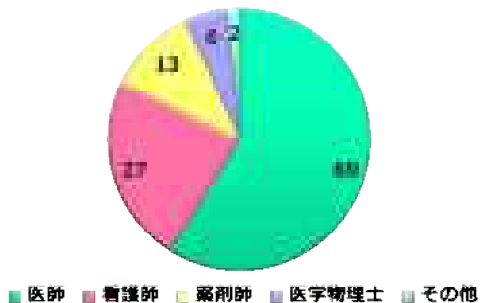
「がん」に特化した講座の新設

大阪市立大学大学院医学研究科内科学専攻
臨床腫瘍学講座
近畿大学大学院医学研究科緩和医療学講座
神戸大学大学院医学研究科内科系講座
先端緩和医療学分野
神戸大学大学院医学研究科内科系講座
放射線医学分野放射線腫瘍学部門

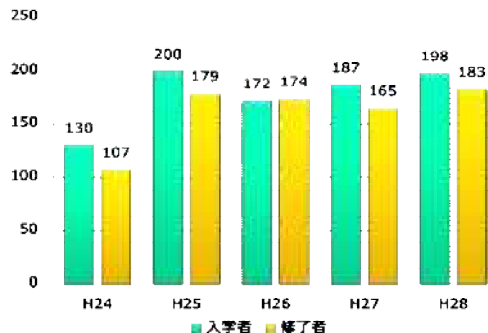
専門資格取得状況 (64名)



職種別大学院入学者数 (全117名)



インテンシブコース受講者数年次推移



アウトカム

- ◆ がん専門医療人材を養成するための**教育基盤拠点の構築**
- ◆ **多職種連携チーム医療の実践によるがん診療の質の向上**

各部門における取組内容



NPO法人 近畿がん診療推進ネットワーク

取組大学：岡山大学（連携大学：愛媛大学、岡山大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、徳島文理大学、広島大学、山口大学）
取組名称：中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム

○取組概要

共育と協育をテーマに中国・四国地域の広範囲に及ぶコンソーシアムを構成し、他のコンソーシアムと連携しつつ特色あるプログラムを遂行した。380名に及ぶ入学生から多数の専門職資格者を輩出し、地域医療や専門施設での研究に貢献している。

広域・多数の参加大学・連携拠点病院

連携10大学
 連携拠点病院数：37



地域性に合わせ得意分野を活かす運営



優れたプログラム運営

大学院入学者数：**380名**

医師：244名、看護師：37名、薬剤師：4名、
 医学物理士：34名、栄養士：61名

全国がんプロ
 緩和医療部会
 岡山大学が部会の主
 体となって緩和と教育資
 材、緩和共通テスト
 を作成

広報誌の発行
 Quarterly Report
 vol.34～49

市民公開講座
 開催数：20回、参加人数：4,296名

小・中・高生
 へのがん教育
 開催数：70回

患者会との
 交流
 患者会：
 おれんじの会、他

●FD研修

国内外の優れた施設で教員の研修を行うことで、がん専門職医療人を養成するために必要な教育資源と人的資源を培い、教育の実質化に成果を上げている。また、地域でのがん診療のレベルアップと均てん化にも大いに貢献した。

●チーム医療合同演習

コンソーシアム内の多職種のがんプロ学生・教員が一同に会し、2日間にわたってチーム医療をテーマとした講演会及びワークショップ形式の討論を通じてチーム医療の重要性を学んだ。また、知識の底上げだけでなく、互いのネットワークの形成に大きな役割を果たした。

●中国・四国 eラーニング

学生が、時間・場所に関係なく、自由に質の高い教育を受けることができるよう、コンソーシアム内で講義コンテンツを共有し、広域での各専門分野の教育の均てん化を図った。学生の学習環境の整備と併せて、実際の単位取得にも寄与することができた。

●eポートフォリオ

web環境での双方向性の指導ツールとして平成24年度より稼働を始め、コンソーシアム内の専門分野の異なる指導教員による個別の添削指導をweb上で行った。専門医試験の症例の添削指導などの受験者のサポートや情報提供など、効果的に利用された。

●英語教育

海外から講師を招聘し英語による講演会を開催したり、英語による講義の実施、また国際セミナーなどで海外の学生、医療人とディスカッションを行うなど国際的に活躍できる人材の育成を行った。

●国際貢献

急速に発展し、まだ十分な医療教育システムが構築されていないミャンマーから、平成25～28年度にわたって腫瘍内科医等の医療人を招き、FD研修を実施した。本FD研修に参加されたミャンマー医療人が得た知識・経験を基にミャンマーの医療発展に貢献されるものと思われる。

在宅看護師育成事業
 「質の高い在宅がん看護実践を創造していく看護師養成プログラム」を開発し、在宅がん看護に特化したインテンシブコースを開発した。在宅移行支援の必要ながん患者や、在宅を取りを希望する家族に対する看護ケアの充実のため、がん患者の入院早期から退院後の生活を見通してケアを提供し、在宅療養の可能性を広げることのできる看護職およびチーム医療を基盤とする在宅がん医療をコーディネートできる専門的知識と技術を有する看護師の養成を図った。5年間で55名が修了した。

がん専門栄養士養成事業
 がん医療チームの一翼を担うがん専門の管理栄養士の養成を行うため、がん病態栄養専門管理栄養士取得を目指す「がん専門栄養士養成コース（臨床腫瘍栄養学コース）」を全国で唯一医学部に設置された管理栄養士養成課程を有する徳島大学大学院栄養生命科学教育部に設置し、これまでに21名が修了した。このうち7名が、がん診療拠点病院に勤務し、地域のがん診療に貢献している。

インテンシブコース(受講者数)

資格名	取得者数
がん薬物療法専門医	15名
がん治療認定医	43名
消化器外科専門医	29名
外科専門医	21名
消化器がん外科治療認定医	6名
食道科認定医	7名
血液専門医	4名
呼吸器外科専門医	4名
乳腺認定医	3名
乳腺専門医	4名
呼吸器専門医	2名
放射線治療専門医	3名
放射線科専門医	2名
気管支鏡専門医	2名
消化器病専門医	4名
がん看護専門看護師	27名
がん専門薬剤師	2名
緩和医療専門医	1名
その他	19名

多くの専門職の養成

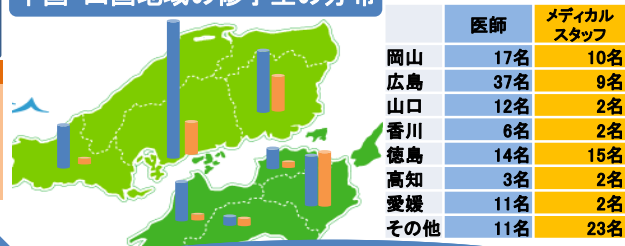
計203名

資格名	取得者数	資格名	取得者数
がん薬物療法専門医	15名	呼吸器専門医	2名
がん治療認定医	43名	放射線治療専門医	3名
消化器外科専門医	29名	放射線科専門医	2名
外科専門医	21名	気管支鏡専門医	2名
消化器がん外科治療認定医	6名	消化器病専門医	4名
食道科認定医	7名	がん看護専門看護師	27名
血液専門医	4名	医学物理士	5名
呼吸器外科専門医	4名	がん専門薬剤師	2名
乳腺認定医	3名	緩和医療専門医	1名
乳腺専門医	4名	その他	19名

医療の標準化

中国・四国地域の修了生の分布

(平成28年4月1日時点)



医療の均てん化

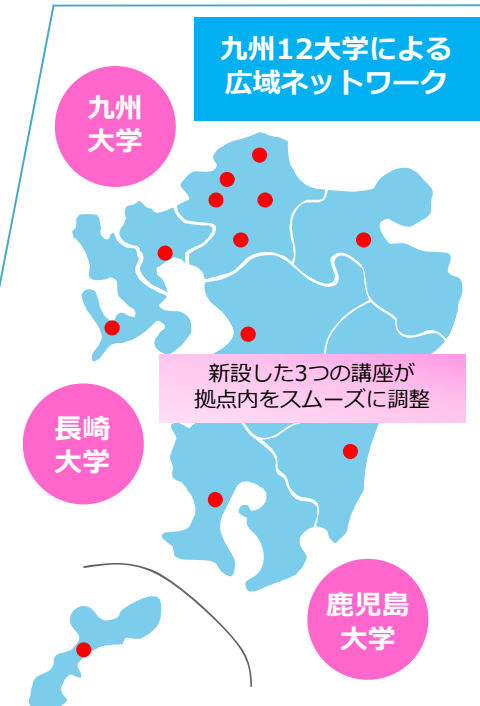
共育と協育

平成24年度～平成28年度 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」 成果報告

取組大学：九州大学（連携大学：久留米大学、産業医科大学、福岡大学、福岡県立大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）
取組名称：九州がんプロ養成基盤推進プラン

○取組概要 九州の医療系12大学が地域医療機関、行政、医師会等と連携し、九州全域におけるがん専門医療人養成のための教育研究基盤の構築を推進。3大学が講座を新設し充実した教育の提供及び拠点内のスムーズな連絡調整を実施。合宿形式の研修会、eラーニング・テレビ会議システム等のツールを織り交ぜ、ネットワークの拡大と一律な教育を提供した。

- **3大学（九州・長崎・鹿児島）に講座を新設。**講座が積極的な学生受入れに取り組むとともに、九州全域の連携を効率的に実施。
- 全大学のコーディネーター教員により「**九州がんプロ養成基盤推進協議会**」を組織して円滑な運営を実施。
「**事業継続のための検討委員会**」を設置し、補助事業期間終了後の体制・事業を計画的に検討。
- 「九州がんプロ全体研修会」をはじめとした「**Face to Face**」による交流と、**eラーニングやテレビ会議**といったツールをバランスよく織り交ぜて実施することにより、幅広いスタイルの事業を展開。
- 「韓国アサン医療センター・がんセンター訪問研修」をはじめ**国際交流事業も積極的に実施**し、国際的な視野を持った指導者や優れたがん専門医療人を養成。
- 九州の地域性を活かした「**僻地・離島病院実習**」や「**在宅・地域医療実習**」により、幅広いがん診療能力と地域医療におけるがん診療能力を備えた、がん専門医療人を養成。
- 各大学の医師に協力を仰ぎ、「**日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医**」受験のための**症例実績報告書**の作成支援を実施。専門資格取得者数の増加を拠点全体でサポートする体制を構築。
- 「**市民公開講座**」等の実施により、本プランの成果等を分かりやすい形でひろく国民へ発信した。
- 5年間で入学者**293名**(大学院コース) / **926名**(インテンシブコース)、修了者**159名**(大学院コース) / **811名**(インテンシブコース)、資格取得**66名**の実績(29年3月末現在)。期間終了後もコース等を継続し引き続き支援を実施する。



がんプロ全体研修会



アサン医療センター訪問風景



僻地・離島病院実習



市民公開講座

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

	整理番号	1
大 学 名	札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学 (計4大学)	
取 組 名	北海道がん医療を担う医療人養成プログラム	
事業推進責任者	札幌医科大学 医学研究科長 堀尾 嘉幸	
取 組 の 概 要		
<p>広大な医療圏を形成する北海道においてがん専門医療人を養成することは重要な課題であり、がんプロフェッショナル養成プランは大きな成果を上げてきた。しかし、がん専門医療人の多くは都市部の基幹病院に集中しており、遠隔地域のがん患者の多くは専門的ながん医療を受けることが困難な状況にある。</p> <p>本プログラムは、北海道内の4つの医療系大学が道内地域医療機関と連携して、単位互換による講義、全国レベルのe-learningクラウドの活用、インターネット等の情報通信技術(以下ICT)によるカンファレンス、チーム医療研修などを行って、遠隔医療機関で研修する医師やがん診療医療人に地域医療に従事しながら高度の専門教育を受けられるようにし、地域のがん専門医療人の養成とがん医療レベルの向上を図り、さらに、臨床を出発点とした最先端のがん研究の基盤作りを推進するものである。</p>		
最終評価結果		
(総合評価) A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。		
推進委員会からのコメント ○:優れた点等、●:改善を要する点等		
<p>○単位互換、クラウド、ICTカンファレンス等を用いて、北海道地域全体を俯瞰した形で多職種の人材養成に取り組んでおり、北海道地域における医療の均てん化を推進している。</p> <p>○早期から希少がん対策として「サルコーマボード」を企画・運営している。</p> <p>○各大学が地域の中核的な医療機関に出向いて、インテンシブコースを開催したことは、地域医療機関との連携や教育内容の還元に一定の効果をもたらしたと考えられる。</p> <p>○がんプロ履修生が学校がん教育の講師となって実地研修を行ったこと、医学物理士のコース開設と人材育成や米国大学とのサマースクールを開催するなど、教育効果向上に有効な取組が行われている。</p> <p>○がん患者団体との連携や、がん患者のサバイバーシップに関する啓発に積極的に取り組んでいる。</p> <p>●受入人数に比して資格取得につながった者が少ない。各種専門資格の取得に結びつくようなカリキュラムの設定を考慮して全体のレベルアップにつなげる必要がある。</p> <p>●本事業に特化したFDを実施する必要があるほか、大学間でFDの開催数、参加人数に大きな差があり改善が望まれる。</p> <p>●「社会にわかりやすく発信する」という観点については、市民向け公開講演会やセミナーの開催実績、ホームページ更新回数などからみると、十分に対応できていない。</p> <p>●運営協議会や外部評価委員会を積極的に開催しているが、外部評価等において外部や患者団体などの意見がどれだけ反映されているかが不明確である。</p> <p>●事業の更なる推進に活用するため、北海道の地域がん拠点病院等の専門人材や多職種チームの充足状況がどの程度改善したのか等を分析することが望まれる。</p>		

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	2
大 学 名	東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学 (計4大学)		
取 組 名	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン		
事業推進責任者	東北大学 加齢医学研究所 教授 石岡 千加史		
取組の概要			
<p>本プランは、高齢化社会における地域のがん医療の課題解決のため、地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置く。がん医療に必要な学識と技能や国際的レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、地域、多職域（医療チーム）、患者会が連携して在宅医療や緩和ケアを含めた地域のがん医療とがん研究を推進するための広域かつ包括的教育プログラムを提供する。連携4大学が教育コアとして大学院に新たに3講座と43教育コースを設置し、地域のがん診療連携拠点病院（以下、がん拠点病院）等との連携により、多職域のがん専門医療人を養成し地域の人材交流を推進する。高齢化と地域医療過疎を特徴とする日本の地域がん医療モデルを構築する新規性と、東日本大震災の経験を基に震災時の新しい地域がん医療モデルを構築する獨創性がある。新しい地域がん医療モデルが構築されれば、わが国のみならず世界の地域がん医療の向上へむけ波及効果が期待できる。</p>			
最終評価結果			
<p>(総合評価) A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。</p>			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○震災など自然災害時のがん医療の実際について、国際会議で提言するなど世界に発信したほか、新設した「地域がん医療推進センター」や各地域の大学等の連携による過疎地域のがん診療の支援の在り方の実際を示すなどの取組を推進している。</p> <p>○がん拠点病院空白地域における多職種連携チーム医療研修を実施するなど地域事情に沿った事業が企画、実践されている。</p> <p>○インテンシブコースでは、災害時がんチーム医療コースの受け入れ実績、修了者数とも際立って多く、本プログラムの特徴として評価できる。</p> <p>○がん研究者養成に関して、各コースに在籍する医師、薬剤師が若手研究者に贈られる賞を受賞するなど、外部から高い評価を得ている。</p> <p>● 医学物理士養成コース、災害時がんチーム医療コース（インテンシブ）以外のコースでの修了者数が低調となっている。</p> <p>● キャンサーボードについて、大学による差が大きく一部の大学においては充実を図る必要がある。</p> <p>● 市民向け公開講座実施数や各種団体との連携事業実施数について、大学による差が大きく広域での開催や大学間相互乗り入れなどの工夫による均てん化が必要とされる。</p> <p>● コース履修者の満足度調査に係る課題への対応策や研修などの効果等を具体的に提示する必要がある。</p> <p>● 大学と他団体との運営面での連携についての指摘があったが、依然、一部の大学での他団体との連携事業の実施についての課題が継続していると思われる。</p> <p>● プログラムへの受け入れ人数に関しては、講演会やセミナーなどを開催してPR活動にも力を入れているが、コースによっては「0人」「1人」というものが目立ち、当初の目標設定との乖離が見られる。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	3
大 学 名	筑波大学、千葉大学、群馬大学、埼玉医科大学、日本医科大学、獨協医科大学、茨城県立医療大学、群馬県立県民健康科学大学 (計 8 大学)		
取 組 名	国際協力型 がん臨床指導者 養成拠点		
事業推進責任者	筑波大学 医学医療系 消化器外科 教授 大河内信弘		
取 組 の 概 要			
<p>本拠点はグローバル化が進むがん医療において、大学間、学部間の壁を越えた連携教育環境の構築に尽力した。筑波大の陽子線、群馬大の重粒子線センターが連携し、世界的にも例を見ない強力な放射線治療の教育養成拠点を形成した。大学間連携セミナー（74 回）と国際重粒子線がん治療研修コース（3 回）も開催し、放射線腫瘍医 37 名、医学物理士 57 名の大学院生を養成に繋がった。独自に開発した e-learning ソフトウェア（文部科学大臣賞受賞）が可能にする、がんプロ拠点の枠を越えた連携教育にも積極的に取り組んだ。全 14 拠点 93 大学からの 1862 コンテンツを 7412 名のユーザに公開し、10 万時間を超える学習機会を提供した。医歯薬看の分野横断的研究活動は、英文論文 2 編の出版という具体的成果まで完結させた。本事業における教育の共同実施の成果として、目標値（399 名）を超える 435 名のがん専門医療人を大学院で養成した。</p>			
最終評価結果			
<p>(総合評価) S 教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。</p>			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○全国の 93 大学で利用されている「全国 e-learning クラウド」を構築・運営し、全国的ながん医療人養成の底上げに寄与するなど、大きな成果を上げている。</p> <p>○特化させた講座や横断的講座、大学間多職種の連携、地域との連携などユニークな観点を持ち、ほとんどの目標が達成されている。</p> <p>○本事業に係る成果等を積極的に発信しており、特に大学院生が主体的に参画し製作した市民向けの説明動画は延べ 33,666 回視聴されるなどの成果を上げている。</p> <p>○市民との連携や学校教育における教育プログラムを開発するなど、がん医療の知識普及と相互理解に努力している。</p> <p>●今後の e-learning に係る維持方策、他大学との協働等のビジョンについて、明確化する必要がある。</p> <p>●地域医療との連携が十分とは言い難い。</p> <p>●各大学における成果は認めるが、グループ全体としての成果が見えにくい。</p> <p>●プログラムの達成不十分な点等について、どのように改善したのか具体的な提示が望まれる。</p> <p>●インテンシブコースの受け入れ、FDの活動が比較的低調となっている。また、各教育コースの継続について不安な点が残されている。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	4
大 学 名	東京大学、横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学 (計4大学)		
取 組 名	がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成		
事業推進責任者	東京大学 大学院医学系研究科長 宮園 浩平		
取組の概要			
<p>本事業は、大学院教育におけるがん医療の指導的医療人を育成する取組である。がん医療の均てん化の推進にもかかわらず、難治がんが多数存在することや、多面的な症状に対する治療方法が不十分であることなど、がん医療には未解決の課題が山積している。このような課題に対しては、がんに苦しむ人々の心に寄り添った医療を原点として、がんの本質的な研究が遂行できる環境を拡大整備し、臨床問題解決型の研究を行なうことが必要である。そのために、本事業は、研究者養成に重点を置く東京大学に、教育改革や地域医療を推進する3大学が連携することによって、最先端研究とがんの実地医療の両方に造詣を有し、広い視点からがん医療を先導する能力を有する医療人を育成することを目標とする。このような医療人が継続的に輩出されることによって、がん治療のブレイクスルーとなる成果が得られるとともに、多面的ながんの苦痛が軽減されることが期待される。</p>			
最終評価結果			
<p>(総合評価) S 教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。</p>			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○各大学の背景を生かした事業分担がなされており、地域医療を担う総合医を対象にした包括的ながん医療教育や新規治療研究を实践する先端がん治療専門医の養成を行っているほか、がん研究医、先端がん治療専門医療職等の特色ある医療人養成を推進している。</p> <p>○すべての教育コースで職種横断型教育やがん経験者の指導の下に学ぶ教育を实践しており、毎年、継続的に一定数の資格取得者を輩出している。</p> <p>○緩和ケアや支持療法、がんピアサポートに関するチームなど、様々なチームが新たに設置されており、今後のがん医療の推進への貢献が期待される。</p> <p>○教員のFDによりキャリア支援を強化する改善を行っているほか、外部評価で指摘があった相互連携の改善のための遠隔会議システム導入など、プログラムの質の向上に向けた不断の見直しを推進している。</p> <p>○全人的な視点からの疾患マネジメントについて、指導教員の評価並びに研究発表の場を通じて、更なる研鑽に向けた努力が行われていると考えられる。また、「がん診療に関するアンケート調査」を通じた教育効果の医療現場への還元に向けた取組や市民公開講座等の積極的な開催により、その成果の可視化を推進している。</p> <p>● 事業実施に関しての機能分担がなされているが、その成果の共有、それぞれの大学の機能向上に向けての相互交流の促進についての取組みが十分とはいえない。また、それぞれの職種の人材育成の成果が見えづらい部分がある。</p> <p>● インテンシブコースの受入人数については、平成27年度より3コースを開設して教育対象者の拡大を図ったものの、他大学と比較すると、インテンシブコースにおける受入人数が少ない。</p> <p>● キャンサーボードの実施回数が減少している大学が複数あり、院内での連携体制の後退が危惧される。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	5
大 学 名	東京医科歯科大学、秋田大学、東京医科大学、東京工業大学、東京薬科大学、弘前大学 (計6大学)		
取 組 名	次世代がん治療推進専門家養成プラン		
事業推進責任者	東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 副研究科長 北川 昌伸		
取組の概要			
<p>がん専門外科医師を含めがん専門医療人については中期的には確保の目処が立ったと考えられる。しかしながら、養成された人材が医療現場において効果的・効率的にがん医療に貢献するためには、技術応用の管理が必要と考えられ、がん診療についての質向上および質保証の包括的枠組みの提供が望まれている。このため、各種低侵襲がん治療方法の習得、総合臨床腫瘍医の養成、がん診療の地域医療における普及・推進、がん臨床研究の推進とその成果の実践応用、がん治療に必要な機器の開発に従事できる人材の養成、がん化学療法の質向上に貢献できるがん専門薬剤師の養成、これに加えて事務要員の養成を図ることとした。本プランは従来の養成プランの成果を基に発展的に策定したものであり、また、従来の養成プランは大学で継続させ、併せて習得できるように設計されている。</p>			
最終評価結果			
(総合評価) A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○臨床腫瘍学分野や総合がん・緩和ケア科、がん低侵襲治療専門医育成コースの設置等を通じて、がん診療に携わる医療者の教育システム構築を推進している。</p> <p>○骨転移外来のようなユニークな試みを実施しているほか、放射線治療部、リハビリテーション部、歯科衛生士等の協力を得るなど施設の特徴を盛り込んだ企画を実施している。</p> <p>○がん医療事務職員・がん登録士養成のためのインテンシブコースでは、それぞれの大学に修了者が蓄積されつつあり、実践の場での人材活用が期待できる。</p> <p>○がん患者や家族の参画によるがんサロンやピアサポート等の取組や、がん教育への協力、患者団体と連携した普及啓発活動が積極的に行われている。</p> <p>○新規開設講座の人件費を大学負担とするなど、事業の成果を持続可能とするための仕組みを構築している。</p> <p>●達成目標や評価指標に対する成果が具体的になっておらず、明確化する必要がある。</p> <p>●目標人数に対する受入人数が少なく、結果として資格取得者数も少なくなっている。また、一部大学での総合腫瘍医・腫瘍内科医養成コース、薬学系コースでの実績が低調となっている。</p> <p>●医師、放射線治療医などで専門資格取得につながるようなモチベーションを促進するような取組が不十分である。</p> <p>●参加大学個々には充実した取組が実践されているが、大学間連携（特に大都市圏の大学と地方大学との連携）や多職種連携が効果的に実施されていない。また、がん医療への公衆衛生的、文化人類学的あるいは地勢学的側面からのアプローチや地域格差についての学びの場が十分に提供されていない。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

	整理番号	6
大 学 名	慶應義塾大学、北里大学、首都大学東京、信州大学、聖マリアンナ医科大学、聖路加国際大学、東海大学、東京歯科大学、山梨大学、国際医療福祉大学 (計 10 大学)	
取 組 名	高度がん医療開発を先導する専門家の養成	
事業推進責任者	慶應義塾大学 大学院医学研究科委員長 河上 裕	
取 組 の 概 要	<p>本プランでは高度がん医療を担う人材養成を目標に「先端医療の推進・トランスレーショナル研究(TR)」と「QOLの向上」を担う人材養成を2大テーマとして、各研究科に新規大学院コースとインテンシブコースを設置し、信州大に新規包括的がん医療講座を設置した。それぞれ特色をもつ10大学15研究科からなるメリットを活かすために、運営会議の下、5委員会(教育、研究、評価、広報、分野別)を設置し、事業全体を統括した。特に分野別委員会では大学間連携事業として各大学の現場専門医療人で構成される13委員会(TR、QOL、化学療法、放射線治療、緩和・在宅、低侵襲、小児、支持療法、チーム医療、遺伝子医療、看護、薬学、地域医療)を設置し、分野ごとに得意とする研究科が中心となる連携活動を実施し、がん教育・研究・医療の均てん化を図った。大学院でのがん医療教育のためのFDと外部評価を毎年実施し、恒常的にプランの改善を図った。</p>	
最終評価結果	<p>(総合評価) A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。</p>	
推進委員会からのコメント	○：優れた点等、●：改善を要する点等	
	<p>○連携大学やコースが多彩であり、全体の運営が困難であると考えられる中、分野別の13委員会を設け、分野別に強みを持った研究科が中心となった連携活動を推進するなど、様々な運営上の工夫を交えながら事業を推進し成果を上げている。</p> <p>○先端医療、トランスレーショナル・リサーチ分野の人材養成や海外講師の招請によるチーム医療講習会を実施するなどの特徴的な取組が推進されている。</p> <p>○受講者確保に向けて、がんプロ卒業生等による教育プログラムの周知に加え、学費補助なども取り入れ、受講者の増加につなげている。</p> <p>○市民への啓発活動の内容をテキストブック化し、社会や医療人に対する教育や啓発に活用しているほか、多様な情報を得られるようホームページを充実させるなど、本事業の成果の社会への還元を積極的に推進しており評価できる。</p> <p>●多くの人材育成プランが実施されているが、それに対応する形での資格取得者数の伸びが見られない。</p> <p>●事業への積極的参加が認められない大学が複数見られることから、施設間格差とその運用上の課題について検証を行う必要がある。</p> <p>●連携施設が広範囲なため、地域がん医療の向上という視点では成果が見えにくい面がある。また、地域がん医療の中でがん診療連携拠点病院等とどのように連携して人材育成していくのかという視点においても検討が望まれる。</p>	

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	7
大 学 名	順天堂大学、島根大学、鳥取大学、岩手医科大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学（計7大学）		
取 組 名	ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン		
事業推進責任者	順天堂大学 医学研究科長 代田 浩之		
取 組 の 概 要			
<p>本事業はがん専門医療者の養成を行い、がん医療の底上げに貢献してきた。これまでは全国のがん患者に均等に医療者養成の成果を還元し得る臨床の連携、基礎と臨床が協働する医薬看理工連携が課題であり、従来、地方と首都圏大学との人材交流は少なく、地方のがん医療人養成はマンパワーに問題があった為、本プランでは、本学及び連携医科系大学と非医科系大学をICTと循環型人材交流で結び、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を目的に活動してきた。具体的には(1)順天堂大学に先導的がん医療開発研究センターを整備し、これを拠点として(2)東京理科大学・明治薬科大学・立教大学との共同橋渡し研究の体制整備と実施、(3)島根大学、鳥取大学、岩手医科大学の構築するコンソーシアムと理薬工学系大学をICTと人材交流で繋ぎ、臨床・研究・教育に一気に風穴をあける平成のがん医療維新を引き起こしたと考えている。</p>			
最終評価結果			
<p>(総合評価) A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>			
<p>○複数の教育コースにおいて、目標人数の倍以上の受入実績を上げている。 ○ICT技術を用いて首都圏の大学と地域の大学との連携を行う試みは、地域差解消という観点からは評価できる。 ○異分野連携を促進することによって、医科系と非医科系との共同研究を成功させている。 ●様々な工夫を凝らして、広域にわたる連携大学間の交流促進を図っているが、その結果、どのような成果が特に地域にもたらされたのか不明確である。また、連携大学間のインフラ整備と支援体制を更に強化する必要がある。 ●遠隔地の連携大学との共同研究の成果が十分とはいえない。また海外の拠点病院との共同研究についても補助期間中には結実していない。 ●各大学と地域の連携に関する取組が乏しく、また、事業の責任体制も明確ではない。 ●遠隔地との連携という難しさがあるからこそ、それをメリットとするような定性的、定量的な成果が求められるが十分とはいえない。大きなプロジェクトに対する連携というよりは個別に各大学が事業を遂行している印象を受ける。特に、一部の大学については、連携の意義や、他の連携大学に対する相補的なメリット、全体のプロジェクトに対する貢献度が明確になっていない。 ●院生数、専門有資格者数が、多拠点に比べて少ない。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

	整理番号	8
大 学 名	東京女子医科大学、杏林大学、帝京大学、駒澤大学 (計4大学)	
取 組 名	都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育	
事業推進責任者	東京女子医科大学 化学療法・緩和ケア科 教授 林 和彦 放射線腫瘍学 教授・講座主任 唐澤 久美子	
取 組 の 概 要	<p>本事業は、都市部における地域がん医療のコーディネーターとなる医療者を養成する取組である。東京都では、がん患者の生活環境や要望は大きく異なる上に急速に高齢化が進行し、急性期から在宅医療までの地域がん医療連携の効率化が急務であるが、地域医療のコーディネート能力のある医師や看護師は極めて不足している。3大学病院はがん診療連携拠点病院として質の高いがん医療を提供してきたが、加えて東京女子医科大学には次世代医療テクノロジーに関する最先端の研究能力、帝京大学にはわが国の緩和医療やチーム医療を黎明期から牽引してきた実績、杏林大学には質の高い臨床研究を積極的に推進する能力がある。さらに駒澤大学にはがんの遠隔診断や画像転送システムの開発能力がある。本事業では4大学の総力を結集し、患者・家族の視点に立ちながら、質・量ともに多様化する都市型がん地域医療を担うことのできる次世代のがん医療人リーダーを養成する。</p>	
最終評価結果	<p>(総合評価) B 教育の活性化がある程度促進され、がん専門医療人の養成がある程度推進された。</p>	
推進委員会からのコメント	○：優れた点等、●：改善を要する点等	
	<p>○急速に高齢化が進む都市部のがん医療の在り方について、がん患者が抱える課題や問題点について調査研究に加え、地域医療実習を行うなど、プログラムに工夫がみられる。</p> <p>○学生主導の合同カンファレンスでコーディネート能力などの養成を行うほか、地域の教育委員会と連携して小中高校への出前授業を行うなど、地域との連携にも熱心に取り組んでいる。</p> <p>○医学物理学分野の新設により多くの医学物理士を養成している。</p> <p>○外部評価委員会に患者団体代表を加えるなど事業の実質性を重んじた体制を構築している。</p> <p>○事業の継続性を考慮し、講座と雇用教員の経費を補助金に頼らず大学自己資金として措置している。</p> <p>○事業の成果の可視化に配慮し、連携大学合同ホームページ、各大学個別のホームページ、ニュースレター、SNSなどにより積極的に情報を発信している。</p> <p>●目標とした「都市型がん医療」のモデル化、定型化の試みが不十分で確立できなかった。このため、個々の活動間の収束性、集積性が認められず、事業全体としての合理性が認められなかった。</p> <p>●「都市型がん地域医療」と各職種専門資格との関連性、整合性の対応が不十分であり、事業の方向性が定まらなかった。</p> <p>●医学物理士を除き、各医療職の専門資格取得者数が少ない。</p> <p>●中間評価時への対応状況について、定量的、実証的な評価がなされていない。</p> <p>●腫瘍内科学講座の設置が実現されなかった。</p> <p>●事業後半は活性化が見られた分野もあるが、全体としては安定した進展を持続できなかったのは残念である。</p>	

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

	整理番号	9
大 学 名	金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学 (計5大学)	
取 組 名	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	
事業推進責任者	金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科長 堀 修	
取 組 の 概 要	<p>北陸地区の医科系4大学・看護系1大学で取組み、以下の実績をあげた。①がん教育改革(本科8コース)に105名を受入れ(充足率164%)医科系4大学の単位互換や独自のe-learningシステム(14科目90コマ)を活用した教育で、がん薬物療法専門医等を養成し、計139名の認定資格取得者を輩出した。②地域がん医療では、地域がん医療の指導者養成、休職中看護職復帰等を目的としたインテンシブ11コースに277名を受入れ(充足率110%)医療スタッフ活性化に貢献した。③がん研究者養成本科2コースに、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育や米国人講師による国際講座(学会発表27回、英文論文89報)により11名のがん研究者を養成した。④多職種連携を目的に最大12施設が同時参加するTV会議がんチーム医療推進に貢献した。</p>	
最終評価結果	<p>(総合評価) A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。</p>	
推進委員会からのコメント	○：優れた点等、●：改善を要する点等	
	<p>○がんチーム医療を医科系4大学で持ち回り担当し、多施設・多職種連携を行っているほか、具体的な参加受入等の目標を設定し、臨床検査技師も参画させ多職種全体としての活動・機能向上を目指した取組を実施している。</p> <p>○定期的な医学英語講座を開催しているほか、看護領域において海外交流を企画・実施するなど、グローバル化を目指す体制の基盤を構築している。</p> <p>○各大学での事業継続のための予算化を実現している。</p> <p>○地域ケーブルテレビとの連携等の様々な情報媒体の活用した成果の情報発信や、がん教育の推進等による普及啓発活動を積極的に推進している。</p> <p>●地域におけるがん医療の推進は、本プログラムの特徴と考えるが、各大学の連携・協働による成果が明確化されていない。</p> <p>●受入人数、資格取得者数が少なく人材育成という観点からは成果が十分ではない。</p> <p>●がんチーム医療へ薬剤師、看護師の参加比率が少なく、チーム医療の拡充に不安がある。</p> <p>●多くの項目で実績ががんチーム医療症例検討会の実績が主となっており、その他の実績での評価が難しい。</p> <p>●シンポジウムや研修会など連携活動は活発であったが、その結果や反省など成果物などのへ対応が望まれる。</p>	

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	10
大 学 名	名古屋大学、浜松医科大学、岐阜大学、名城大学、藤田保健衛生大学、名古屋市立大学、愛知医科大学（計7大学）		
取 組 名	組織横断的がん診療を担う専門医療人の養成		
事業推進責任者	名古屋大学 大学院医学系研究科長 高橋 雅英		
取 組 の 概 要			
<p>平成19年度より5年間にわたり実施された「東海がんプロフェッショナル養成プラン」では、東海地域に基盤をもつ大学と医療施設の連携により、臓器横断的ながん診療を担うがん医療の専門家が数多く養成されるとともに、横断的・集学的ながん診療の体制と人材育成の拠点が整備されてきた。本事業「組織横断的がん診療を担う専門医療人の養成」では、名古屋大学を主幹とする東海地域の大学がそれぞれの特色を生かして相互に教育を活性化しながら、臓器横断的ながん診療・がん研究を担う人材の養成を発展させるとともに、前事業の積み残し課題である放射線治療と緩和ケアの専門医療人の養成にも力を入れる。本事業によって養成されるがん専門医療人が、各臓器を専門とする診療科や他職種との組織横断的なチーム医療のなかでその専門性を十分に発揮することにより、高度ながん医療とがん研究を実践できる新しい診療体制と教育の拠点を東海地域に創生、整備する。</p>			
最終評価結果			
<p>（総合評価）A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>			
<p>○「骨メタカンファ」は他大学にはないユニークな取組であり、また、日本内科学会東海支部で、「腫瘍」分野を新設するなどの取組を推進している。</p> <p>○国内外へ向けた研究活動が積極的に行われている。</p> <p>○事業内容紹介DVDの作成、ラジオ公開講座での啓発活動、小中学生向けの教育資材作成など幅広い情報発信を行っている。</p> <p>●一部大学の積極的な関与が認められず、各大学の特色を生かしたプロジェクトにするためには、すべての大学がそれぞれの役割分担を果たすことが求められる。</p> <p>●受け入れ実績および資格取得者数は、少なく目標に届いていない。がん化学療法等にも実績のある東海地方で、院生の確保ができておらず抜本的な対策が望まれる。</p> <p>●がん薬物療法の専門家の育成や腫瘍学の社会的認知度を高める観点からは、プロジェクトとして機能しているが、他プロジェクトで見られるような、緩和ケアや地域医療に秀でた人材育成には実績に乏しい。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

整理番号	11
------	----

大 学 名	京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学 (計5大学)
取 組 名	次代を担うがん研究者・医療人養成プラン
事業推進責任者	京都大学 教授 戸井 雅和
取組の概要	<p>本事業は、平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プランで選定された京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学における「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」に関する取組であり、先端的がん研究者の養成と地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成に重点を置き、次代のがん研究、がん診療のイノベーションを担う人材、新規診断法や治療法、ケア法を開発できる人材を養成、および、地域のがん診療拠点と連携して、腫瘍内科医、腫瘍外科医、放射線治療医、乳腺専門医、婦人科腫瘍専門医、緩和医療医、がん専門薬剤師、がん専門看護師を養成する。</p> <p>先端研究施設、がんセンター等での分野横断的研究、集学的研究、腫瘍薬学研究等の基盤を整備、同時に集学的医療、全人的医療プログラムの充実、国際的視野をもつがん研究者・がん医療人教育の推進、5大学間の人材交流を図り、人材養成とがん医療の発展を目指すものである。</p>
最終評価結果	<p>(総合評価) S</p> <p>教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。</p>
推進委員会からのコメント	○：優れた点等、●：改善を要する点等
	<p>○受入人数や資格取得者数等において、高い成果を上げている。</p> <p>○連携5大学のみならず、近畿地区3拠点をはじめとした多拠点間連携の実施や、韓国ソウル大学との合同教育セミナーを実施するなど国内外の大学との連携を積極的に推進している。</p> <p>○国際学会やシンポジウム、英文誌での履修生による研究成果の発表や、海外大学と連携した国際的な取組、国際共同活動を積極的に推進している。</p> <p>○チーム医療実践をするハブ講座を構築するなど、講座の垣根を越えた取組を積極的に推進している。</p> <p>○市民公開講座の開催数やホームページの更新回数などの点において、積極的に成果の発信に努めていると考えられる。</p> <p>○地域がん登録の推進とがん登録データの利活用に対して、自治体を巻き込んだ積極的な取組を推進している。</p> <p>○地域医師会や各県のがん診療連携協議会などを通じて、地域のニーズを把握やがん医療への成果の還元を図っている。</p> <p>●一部大学の積極的な関与が認められず、各大学の特色を生かしたプロジェクトにするためには、すべての大学がそれぞれの役割分担を果たすことが求められる。</p> <p>●基礎から臨床にわたる架け橋的なプログラムのほか、多機能・多職種プログラムの構築が望まれる。</p> <p>●市民向けセミナーの開催や各種団体の連携に対して、十分な取り組みが行われたとは言い難く、患者や家族の視点を教育や運営に反映させる視点到に乏しい点については、今後の取組において改善が望まれる。</p>

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	12
大 学 名	大阪大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学 和歌山県立医科大学、大阪薬科大学、神戸薬科大学 (計7大学)		
取 組 名	地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成		
事業推進責任者	大阪大学 大学院医学系研究科 特任教授 松浦 成昭		
取 組 の 概 要			
<p>本事業は連携7大学が、がんの予防・検診から、診断、治療、在宅、緩和医療に至るまで、がんのそれぞれの局面に必要な人材養成を行うことにより、がんの治療成績向上及び患者 QOL の改善を実現し、関西地区のがん死亡率最悪の状況からの脱却を図るとともに大学間の連携を強化することにより、養成する人材の職種を増やすことで、関西各地区の医療均てん化も推進する。</p> <p>薬物・放射線・緩和医療専門医、がん看護、医学物理、細胞検査、薬学各分野の医療スタッフに加えて、疫学研究者養成による予防等のがん対策の推進、病理医養成による診断能の向上を図るとともに、外科治療も強化し、3つの治療法が連携して機能するようにする。</p> <p>また、大阪薬大、神戸薬大の新たな参加により大阪大学と一体化した薬剤師教育・研究の拠点を関西に形成する。さらには、職種間連携によるチーム医療を推進し、産学連携、医工連携による研究推進も行う。</p>			
最終評価結果			
(総合評価) A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○広範囲にわたる目標や評価指標を適正に設定し、多領域にわたる専門職種の養成、地域との連携、がん医工連携研究の推進など、本事業の推進に積極的に取り組んでいるほか、資格取得者数に十分な成果を上げている。</p> <p>○基本的レベルから高度なレベルを幅広く修得させる教育プログラムとなっているほか、他拠点であまり養成されていない細胞検査士、医工連携がん研究者などを積極的に養成している。</p> <p>○海外から有識者や学生を招聘し国際シンポジウムの開催やセミナー等を実施しているほか、ASCO (American Society of Clinical Oncology) の e-learning コンテンツを視聴可能とするなど、国際的視野を持つ人材育成を推進している。</p> <p>○学生とがん患者の交流を積極的に実施していることは、教育的な観点から評価できる。</p> <p>●一部大学の積極的な関与が認められず、大学間の有機的な連携を行い、すべての大学がそれぞれの役割分担を果たすような実効性のある運営体制の構築を構築する必要がある。</p> <p>●自治体や地域がん拠点等と連携が不十分な点が見受けられることから、改善する必要がある。</p> <p>●養成されたスタッフがどのように社会に還元されているか明確化する必要がある。</p> <p>●関西圏の中核としての特徴を生かし、企業との連携強化なども視野に入れて特徴あるプログラムの構築が望まれる。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	13
大 学 名	近畿大学、大阪市立大学、大阪府立大学、関西医科大学、神戸市看護大学、神戸大学、兵庫医科大学 (計7大学)		
プ ロ グ ラ ム 名	7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン		
事 業 推 進 責 任 者	近畿大学 医学部長 伊木 雅之		
取 組 の 概 要			
<p>本プランは、阪神地区の国公私立7大学8学部の医学、看護学、薬学系大学院研究科が相互に連携し、高度ながん診療と研究を実践できる人材養成の基盤整備を推進する。基盤整備のため教育改革、地域医療、研究者養成の3部門を設置する。教育改革部門では、がん診療に携わる若手医師及び医療人の発掘と育成を目指した専門教育プログラムを開発する。地域医療部門では、地域の医療機関で活躍するがん医療専門人の養成や人的交流を行う。また、がん医療情報の共有を図り、多職種が連携した広域医療ネットワーク構築を目指す。研究者養成部門では、ゲノム薬理学的個別化治療や高精度放射線治療法の開発など基礎研究と臨床研究を融合した教育プログラムのもと、国際競争力を有する研究者を養成する。これらを実現するため、臨床腫瘍学、放射線腫瘍学、緩和医療学の講座を新設する。また、包括的がんセンターを具体化することで、がん教育拠点としての機能を強化する。</p>			
最終評価結果			
<p>(総合評価) S 教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。</p>			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○連携大学間の連携が有機的に行われており、参加施設間の差が少ない。また、学生への教育・啓発やグローバルな人材育成プログラムなど意欲的に教育に取り組んでおり、教育体制・カリキュラムなどもレベルが高く評価できる。</p> <p>○がんチーム医療の基盤となるコミュニケーション力の教育など、医療現場の実状を踏まえた職種横断的な教育を実施している。</p> <p>○大阪地区がん診療・教育基盤整備推進会議を設け、地域における行政、医師会、看護協会と積極的に連携しており、地域のがん医療のレベル向上への貢献が期待される。</p> <p>○連携大学のいずれにおいても各種セミナー・シンポジウムの開催や積極的な情報発信が行われており評価できる。</p> <p>●地域医療部門において各自治体・地域がん拠点などとの更なる連携が望まれる。</p> <p>●先端のがん教育基盤の整備等について、特徴的なカリキュラムでの教育がどのように実施されるのか。またその成果について明確化することが望まれる。</p> <p>●プログラムの改善に関する具体策の明確化が望まれる。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	14
大 学 名	岡山大学、愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、徳島文理大学、広島大学、山口大学 (計 10 大学)		
プ ロ グ ラ ム 名	中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム		
事 業 推 進 責 任 者	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 教授 藤原 俊義		
取 組 の 概 要			
<p>本プログラムは中国・四国地方の全域にわたる大学院、がんセンター、がん診療連携拠点病院が参加する多職種の高度がん専門医療人養成の教育プログラムである。各大学等の持つ特色、地域性を活かし互いに補完し止揚する教育拠点を確立する。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよび e-learning による域内統一カリキュラムによる教育（共育）と大学間連携による優れた指導者による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育（協育）、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する人材の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成を特徴とする。高度専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人が多数輩出されることにより、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究が活性化される。</p>			
最終評価結果			
<p>(総合評価) S 教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>			
<p>○達成目標に対して適切な評価指標を掲げ、各大学が有機的な連携を行うことによって、当初の目標を上回る実績を上げている。特に指導者の資質向上を目指したFDの取組や若年者層を対象にしたがん教育を積極的に推進している点は評価できる。</p> <p>○国際的人材の育成に向けて、海外FD活動、e-learning の一部英語化等の国際化・国際交流に対する取り組みを積極的に推進している。</p> <p>○在宅がん医療について、他大学の参考となるような先進的な取組を推進している。</p> <p>○精神腫瘍医、がん専門栄養士、医学物理士や在宅がん医療に関する人材等、特徴ある専門家の養成を推進している。</p> <p>○小中高生を対象にしたがん教育や市民公開講座を開催するなど、社会への成果の還元を積極的に推進している。</p> <p>●地域のがん治療の均てん化に向けた具体的なエビデンスや独自性が不十分と考えられる。</p> <p>●FDの取組について、大学間で差があることから改善が望まれる。</p>			

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
取組概要及び最終評価結果

		整理番号	15
大 学 名	九州大学、久留米大学、産業医科大学、福岡大学、福岡県立大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学 (計12大学)		
プ ロ グ ラ ム 名	九州がんプロ養成基盤推進プラン		
事 業 推 進 責 任 者	九州大学 大学院医学研究院長 住本 英樹		
取 組 の 概 要			
<p>「九州がんプロ養成基盤推進プラン」では、九州大学を含めた九州の医療系12大学により、地域医療機関や行政、医師会等と連携し、九州全域におけるがん専門医療人養成のための教育・研究基盤の構築を推進した。各大学に配置したコーディネーター教員を中心に「九州がんプロ養成基盤推進協議会」を組織して事業運営の意思統一を行い、各種事業を円滑に実施した。また、九州・長崎・鹿児島の3大学に新設した講座により、広域に及ぶ大学間のスムーズな連絡調整が可能となった。</p> <p>全事業期間を通じて、合宿形式の研修会をはじめとした対面での交流に加え、e-learnig・テレビ会議システム等のツールも効果的に利用することで、九州全域における教員・学生のネットワークの拡大・深化を進めるとともに、全域一律の教育の提供を実施し、結果、九州各地にがん専門医療人を養成した。</p>			
最終評価結果			
<p>(総合評価) A 教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。</p>			
推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○地域性を考慮して、離島・へき地の医療機関に大学院生を派遣し実習を行うなど、地域がん医療に必要な教育に積極的に取り組むとともに、研修会と連動させ、その成果を浸透させるなど、地域医療への貢献に向けて積極的な取り組みを推進している。</p> <p>○早期から事業の継続性を意識し、予算確保等の補助期間終了後の活動基盤の整備・構築に向けた取組を推進している。</p> <p>○早期に外部評価等の自己点検・評価体制を構築し評価結果に基づき、可及的に対応可能な活動を拡大拡散し成果を上げている。</p> <p>○九州がんプロ全体研修会を定期的開催し地域活性化と均てん化に努めているほか、西日本のがんプロ拠点を合同して広域をまとめた市民講座を開催するなど、幅広い活動を企画・展開している。</p> <p>○地域の有利性を活かし、韓国との交流の医療機関との交流や欧州腫瘍研究治療機構等の海外機関との連携により履修者の国際的視野の拡大に向けた取組を推進している。</p> <p>●九州地区全体を意識した事業だが、連携大学間で活動の幅や程度に地域差が見られたことから、大学間の有機的な連携を行い、すべての大学がそれぞれの役割分担を果たすような実効性のある運営体制を構築する必要がある。</p> <p>●専門資格取得に直接・間節的につながる活動の企画が不十分であり、今後、対応策の検討が望まれる。</p> <p>●離島・へき地対策が一部地域に限られ、九州地区という全体から見た対策が不十分である。また、特に離島・へき地への対応として期待されるホームページやSNSによる情報発信が不十分であり改善の必要がある。</p>			